特別支援学校等におけるスヌーズレンの活用方法の検討(2)

企　画　者　野澤　純子　（東京家政大学子ども学部）
司　会　者　逵　直美　（東京都立光明特別支援学校）
話題提供者　大崎　博史　（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
奥山　敬・逵　直美　（東京都立光明特別支援学校）
佐藤　孝二　（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
酒井　康年　（うめだ・あけぼの学園）
指定討論者　柳本　雄次　（東京家政大学子ども学部）

KEY WORDS:感覚活用、スヌーズレン、特別支援学校等

【企画趣旨】

障害のある人が、視覚、聴覚、触覚、嗅覚等の感覚を活用し、心地よい環境の中で自由に探索活動を行える環境づくりを進めることがスヌーズレンの基本的な理念であると考える。

最近、肢体不自由教育や病弱教育を行う特別支援学校の中には、スヌーズレン・ルームを設置している学校がみられる。しかし、その部屋の中でどのような授業が展開されているのか等の活用状況については、まだまだ未知の部分も多い。一方、特別支援学校では重度・重複障害児を対象に感覚・運動機能に働きかけて発達を促進するさまざまな取り組みがこれまで実践されてきている。

本シンポジウムでは、前回に引き続き、特別支援学校等においてスヌーズレンをどのように活用するのがよいのかを中心に感覚活用のあり方に関して、実践者・研究者がそれぞれの立場から話題提供を行い、議論を深めたい。

【話題提供①】「特別支援学校におけるスヌーズレンの活用」（大崎　博史）

特別支援学校ではスヌーズレンがどのように活用されているのか。日本におけるスヌーズレン・ルーム等を設置している学校ではどのようにスヌーズレンを活用しているのかを、訪問して情報収集した学校の様子から述べる。

また、昨年度の話題提供の続きで、オランダにある知的障害と肢体不自由を併せ有する重複障害のある幼児児童生徒のための特別支援学校である Emiliusschool の例をあげ，スヌーズレンの活用方法についても述べる。特に、感覚の活用についてどのような目標を立て，評価をどのように行っているのかを述べたい。

Emiliusschool の例を通して，特別支援学校等におけるスヌーズレンの活用方法について意見を述べる。

【話題提供②】「特別支援学校における感覚活用の実践」（奥山　敬・逵　直美）

肢体不自由の特別支援学校において、年々重度重複化している子どもたちの発信をどのように受け止めていくのかは大きな課題である。そのような中で、音や光などの聴覚・視覚や嗅覚・触覚などの感覚刺激が得られる教材を工夫しながら、子どもたちの発信を受け止める授業をしている。ここではスヌーズレンや見ることの困難さの軽減を目的とした光遊びの授業の様子を紹介し、子どもたちのどの部分に焦点をあて、目標を捉えていくのかについて考えたい。さらに、重度重複の子どもたちの発信の支援について考察しながら、授業でのスヌーズレン活用についての意義と課題について話題提供したい。

【話題提供③】「特別支援学校における知覚―運動学習の取り組み」（佐藤　孝二）

筑波大学附属桐が丘特別支援学校の知覚－運動研究グループは、肢体不自由、特に脳性まひ児の学習困難や重度重複児の学習内容についてケファートの知覚運動学習理論の考え方を基に実践研究を長年にわたり進めてきた。

また、障害の重い子どもたちの「人との関わりを深め育てる」をメインテーマとして、発達初期段階で比較的に受け入れやすい感覚である触覚･固有受容覚･前庭覚等の近感覚系にアプローチする様々な教材を開発し、実際の指導に活用している。開発された教材の中には、視覚・聴覚等の遠感覚系を有効に活用しているものも多い。

個々の子どもの感覚・知覚・認知の機能及び能力や志向性によって、より良い環境づくりや学習が工夫されるべきと考える。本シンポでは、私どもの研究の一端を紹介するとともに、スヌーズレン活用について皆様と共に一考していきたい。

【話題提供④】「感覚統合からみたスヌーズレン」（酒井　康年）

特別支援学校に外部の専門家として関りを持つ作業療法士が“感覚”を活用したり、活用の提案をするのは、次のようなことが多い。①感覚―運動遊びとして―本人の外界に対する興味を引き出し、探索を促すことを目的とする場合。②Sensory communication として―言語コミュニケーション以外のコミュニケーションチャンネルを用意し、やりとりを展開するため。③Sensory diet として―情動調整や行動調整、感覚調整が困難な場合などである。それらは障害種別にかかわらず行っていることである。感覚は主観的な体験であるので、本人にとって意味ある環境を構成する大切な要素の一つとして考えている。そうした環境で感覚を活用することにより、本人の生活の営み（作業＝occupation）にどのような寄与ができるのかが大きなテーマである。

【指定討論の趣旨】「スヌーズレンとは何か」（柳本　雄次）

スヌーズレンが従前重症心身障害児施設を中心に福祉施設に導入された経緯もあり、リラクゼーション等の余暇活動として捉えられてきた。しかし、特別支援学校における教育的営為としてそれをどう活用するのかに関して、他の感覚・運動発達を促進するアプローチとの共通性や特殊性についてはあまり議論されることはなかった。この機会に改めて、スヌーズレンとは何かについて議論し、理解を深めることを期待する。

(NOZAWA Junko,TSUJI Naomi,OSAKI Hirofumi,OKUYAMA Takashi,SATOU Koji,SAKAI Yasutoshi,YANAGIMOTO Yuji)